



大仙市民憲章

わたくしたちのまち大仙市は、豊かな自然と広大な田園に囲まれ、先人のたゆまぬ努力によって栄えてきた歴史あるまちです。わたくしたちは、この貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民一人ひとりが誇りと責任を持って、いきいきと暮らせる一〇〇年都市をめざして、ここに市民憲章を定めます。

- 自分を高め 心を寄せ合い ぬくもりのあるまちをつくります
- ふるさとを愛し 緑の山河を守り 美しいまちをつくります
- きまわりを大切に 力を合わせ みんなで働くまちをつくります
- 健康に努め 家族を思いやり 笑顔の輝くまちをつくります
- 歴史を見つめ 伝統に学び 文化の花咲くまちをつくります

平成二十二年三月二十二日制定

大仙市の花・木・鳥

コスモス



ケヤキ



カワセミ



第3次 大仙市総合計画

概要版

2026 - 2035 令和8年度 - 令和17年度

人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市



大仙市は、令和7年3月22日に誕生から20周年を迎えました
これからも、次の20年、そして50年と
未来に向けて持続可能なまちづくりを進めていきます

第3次
大仙市総合計画
【概要版】
令和8年3月

発行 大仙市 / 編集 企画部総合政策課
〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号
TEL 0187-63-1111 FAX 0187-63-1119
ホームページ
<https://www.city.daisen.lg.jp/>



計画策定の趣旨

大仙市は平成17年3月22日に8市町村が合併して誕生し、これまで2次にわたる総合計画のもと、「市民と行政との協働のまちづくり」を旗印に、将来都市像の実現に向けてまちづくりを進めてきました。平成28年には大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少社会を見据えながら「攻め」と「守り」の両面から、「人口減少の抑制」と「地方創生の実現」に向けた取組を推進してきました。

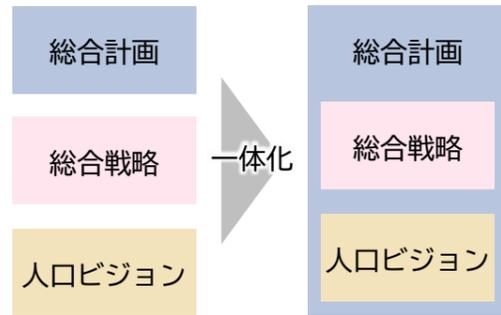
両計画を一体として、各種取組を重層的に展開してきたことにより、農業の担い手確保やスマート農業の普及、創業支援や企業誘致による仕事の場の確保・充実、子ども・子育て支援の充実、若者がチャレンジできる環境づくりなどが進んでいます。さらに、花火産業構想やSDGs未来都市計画、ゼロカーボンシティの推進、行政サービスのデジタル化なども着実に進捗しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推計において人口減少スピードの緩和がみられるほか、近年は社会減の縮小も確認できるなど、一定の成果が現れています。こうした成果に加え、大仙市の誕生から20年を経過した現在、市としての一体感が深まるとともに、市民主体の活動が活発化するなど、将来都市像に一步一步着実に近づいているものと捉えています。

その一方で、人口減少や少子高齢化の進行、物価高騰や自然災害への対応、価値観の多様化など、本市を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした変化や課題に的確に対応し、不確実性が高まる時代を切り拓き、このまちの当事者である私たち一人ひとりが、まちの現状や課題、将来都市像を共有しながら、共に持続可能なまちを創り上げていくため、新たなまちづくりの羅針盤となる「第3次大仙市総合計画」を策定します。

計画の位置付け

総合計画は、だいせんまちづくり基本条例に基づき、市の将来都市像を定め、その実現に向けたまちづくりの基本的な方向性を総合的に示す、市の最上位計画です。

第3次大仙市総合計画では、「大仙市人口ビジョン」とまち・ひと・しごと創生法に基づく「地方版総合戦略」を包含し、一体的に定め、役割や位置付けを明確にするとともに、人口減少の抑制と地方創生の実現に向けた施策の重点化を図りながら、効果的かつ効果的な計画の推進につなげていきます。



計画の構成と期間

年度	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13 (2031)	令和14 (2032)	令和15 (2033)	令和16 (2034)	令和17 (2035)
基本構想	目指すべき将来都市像とその実現に向けた基本的な方向性などを示すもので、まちづくりの長期的なビジョンとして、市民と共有するものです。									
基本計画	基本構想に掲げる将来都市像を実現するため、中長期的な施策や取組を体系的に示すもので、社会経済情勢に対応するため必要に応じて見直しを行います。									
実施計画	基本計画に基づいて実施する個別具体の事業を示すもので、予算との整合・連動を図りながら、毎年度、各事業の評価・検証を行い、必要な見直しを行います。									

大仙市を取り巻く変化と課題

人口減少と少子高齢化の進行

本市は人口減少と少子高齢化が全国よりも早いスピードで進行しており、社会保障関係費などの負担増大に加え、生活基盤や地域経済、コミュニティなどへの影響が懸念されています。人口増加を前提とした仕組みや制度を、人口減少を前提としたものへと作り変え、地域の寛容性や包摂性を高めながら、若者や女性に選ばれ、誰もが健康で幸せに暮らせるWell-being(ウェルビーイング)にあふれたまちづくりを進めていく必要があります。



デジタル技術の急速な進展

コロナ禍を契機に社会全体でデジタル化が進み、私たちの暮らしに豊かさと快適さをもたらしています。デジタル技術は、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりに不可欠であり、高齢者を中心としたデジタルデバイスに配慮しながら、まちづくりの重要な基盤として積極的に活用していく必要があります。

感染症や災害などのリスクへの対応

コロナ禍は市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼし、様々な課題を浮き彫りにしました。また、近年、自然災害の激甚化・頻発化に加え、クマ被害も新たなリスクとして認識されています。こうした様々なリスクに対し、自助・共助・公助の連携のもと、ハード・ソフトの両面から対策を進めていく必要があります。

脱炭素化への転換とGXの推進

異常気象の発生要因となっている地球温暖化への対策は、私たちの生活に直結する大きな課題であり、今や企業活動に欠かせない要素となっています。経済と環境の両立による持続可能な地域社会の構築に向け、一人ひとりが自分事として捉え、問題意識を共有しながら市全体で取組を進めていく必要があります。



持続可能なまちづくりの推進

SDGsの理念のもと、持続可能な地域社会の実現が求められています。本市では、SDGs未来都市計画のもとで各種取組を進めていますが、急速な人口減少に伴い、あらゆる資源の制約や地域課題の深刻化が懸念されています。市民との協働・共創やデジタル化をさらに進めるとともに、効率的な行財政運営に努めながら持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

不安定な世界情勢と地域経済への影響

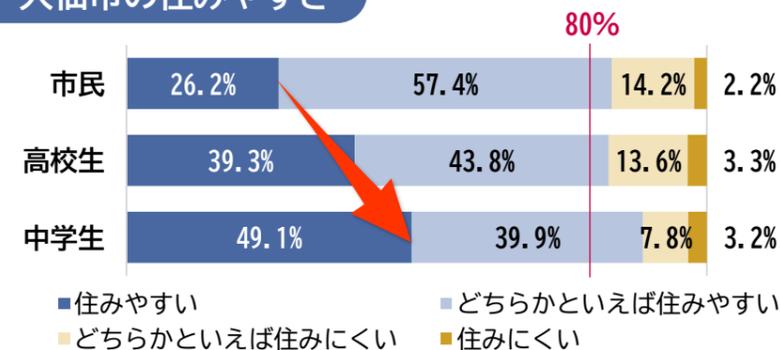
地政学リスクの高まりは、地域経済や市民生活に大きな影響を及ぼしています。経済のグローバル化が進展する中で常に内在するリスクと捉え、中長期的な視点でレジリエンスの高い経済基盤の構築に取り組むとともに、こうしたリスクに対する企業の動向を踏まえた戦略的な企業誘致を展開していく必要があります。

価値観やライフスタイルの多様化

社会の成熟化に伴い、人々の価値観や働き方が多様化しており、家族や地域社会の形も変化しています。こうした変化を柔軟に受け入れ、若い世代のニーズも的確に捉えながら、多様な価値観を尊重し、理解し合い、互いに支え合える包摂的な地域社会を形成していく必要があります。



大仙市の住みやすさ



8割以上の方が、大仙市は住みやすいまちであると感じています。
 (「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」の割合)

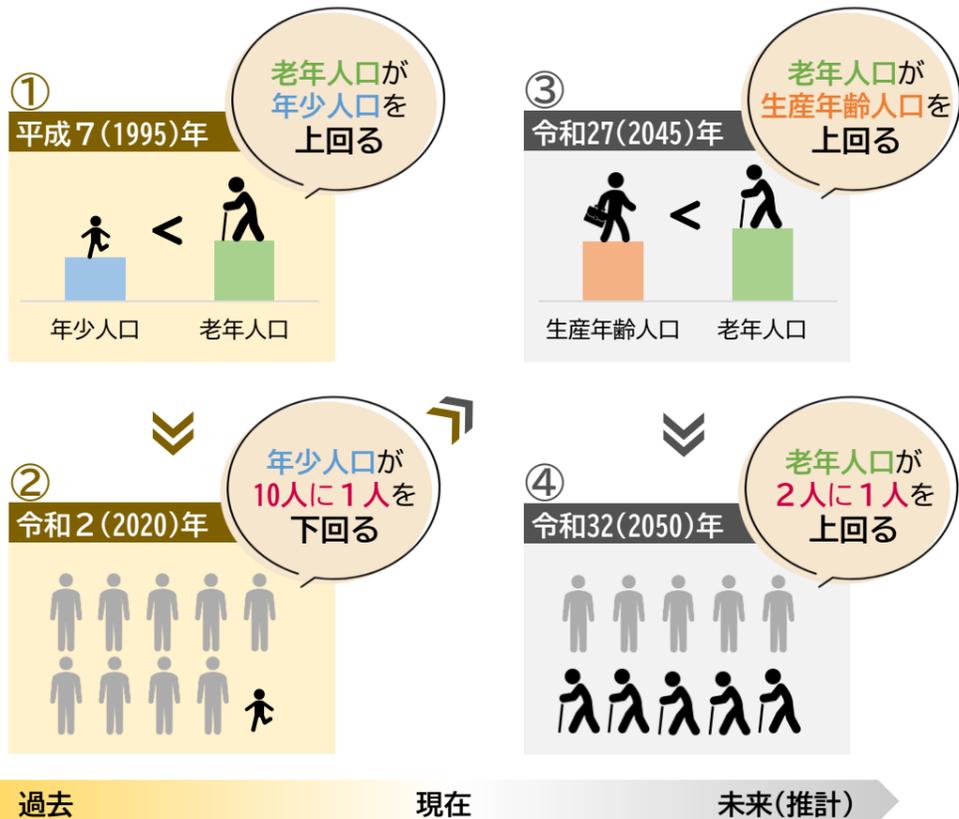
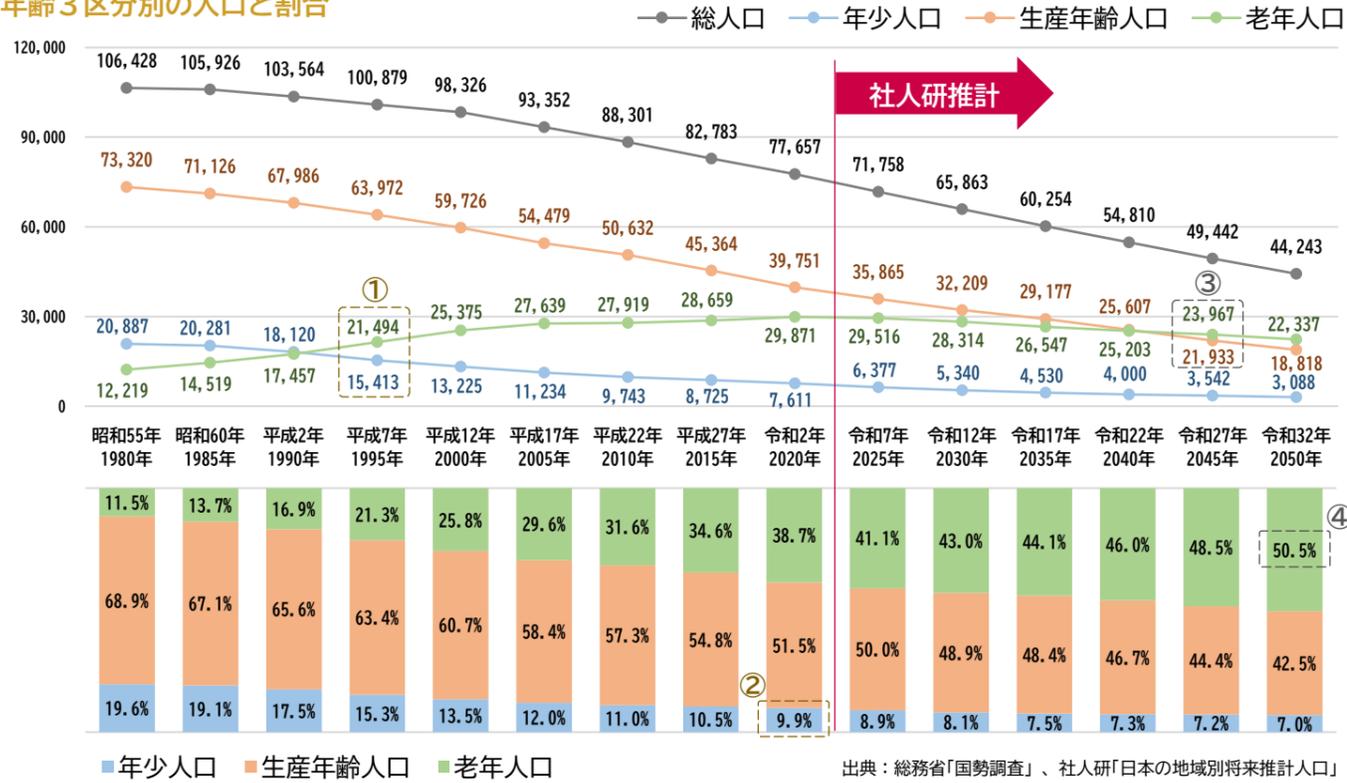
年齢が若いほど「住みやすい」の割合が高くなっています。

中学生では約50%

Ⅱ 人口ビジョン

人口推移・推計

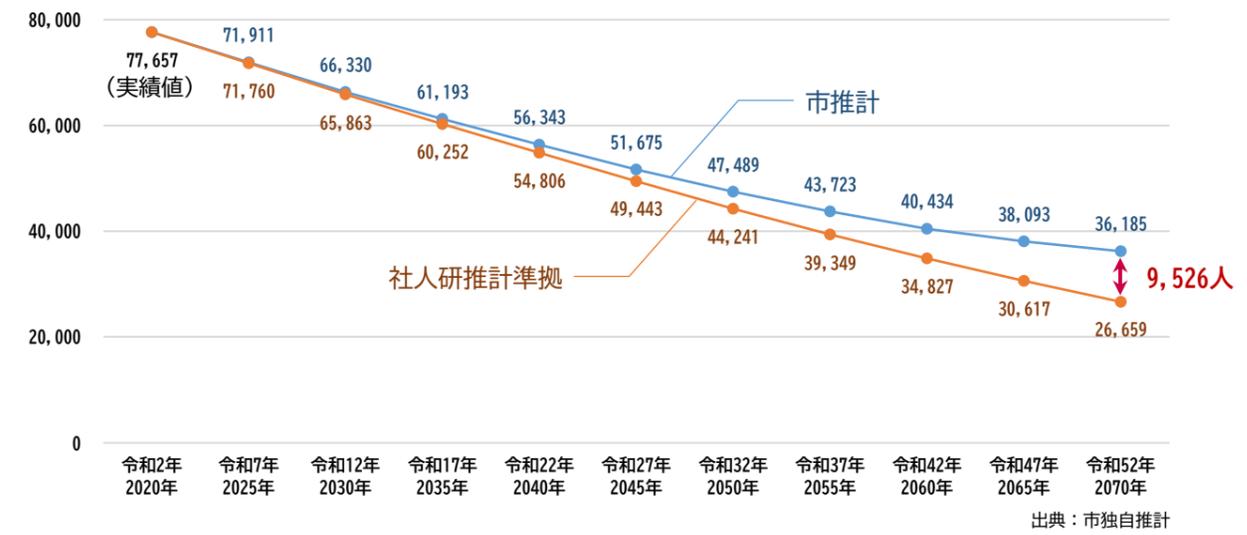
年齢3区分別の人口と割合



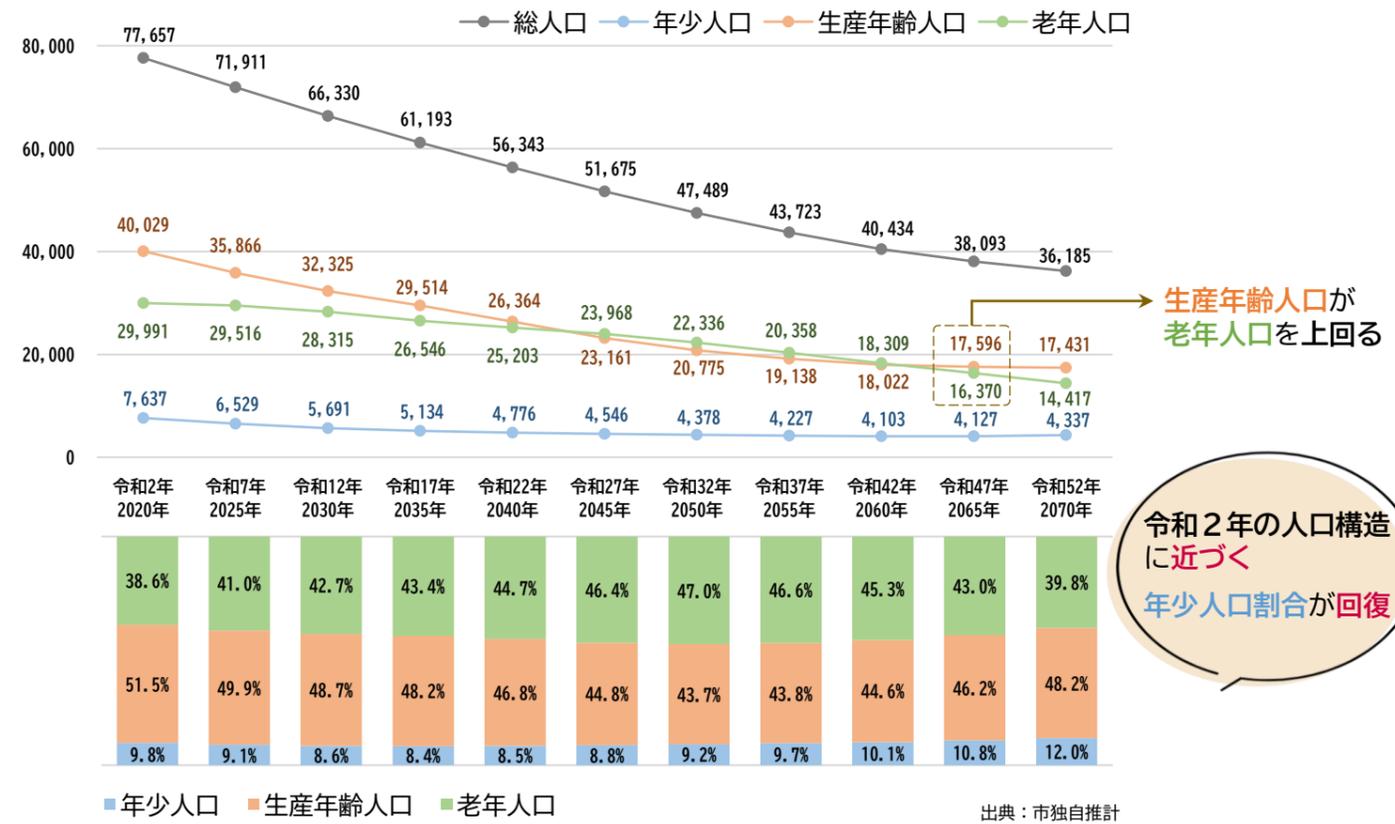
人口の将来展望

将来展望 「出生数の増加」と「社会増への転換」により人口の定常化を目指します

目標人口 令和52(2070)年に36,000人の人口を確保することを目指します



年齢3区分別の人口と割合 (市推計)



令和2年の人口構造に近づく
年少人口割合が回復

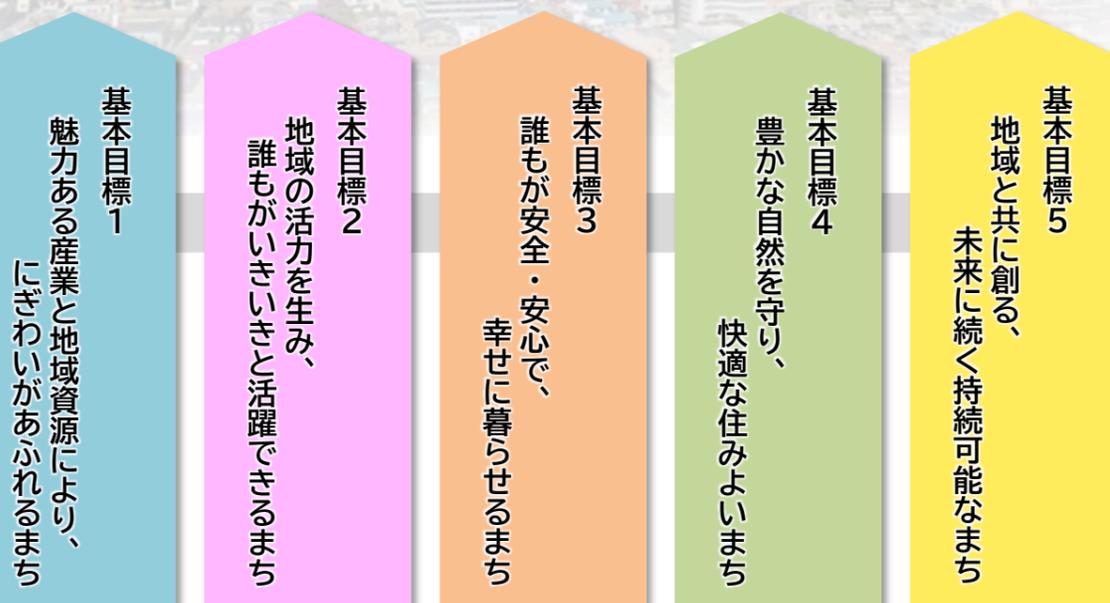
将来都市像

人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市

- 若者や女性をはじめ多くの人から選ばれ、市内外から多様な人々が集い、世代や地域を越えた多彩な交流や地域との多様な関わりが生まれ、にぎわいと魅力があふれるまちになっています。
- 連綿と受け継がれてきた豊かな自然や伝統文化が将来にわたり継承されるとともに、生活基盤の最適化とデジタル技術の活用が進み、自然環境・田園との調和が図られた安全・安心に暮らせる利便性の高いまちになっています。
- SDGsの理念やWell-being(ウェルビーイング)の視点を取り入れながら、市民参画と「協働・共創のまちづくり」が進展し、心身ともに豊かに暮らすことができ、誰もが自分らしく活躍し夢を描くことができる、未来に向けて持続的に発展するまちになっています。

分野横断的に重視する視点

①若者・女性に選ばれるまちづくり
②デジタルトランスフォーメーションの推進
③市民のウェルビーイング向上



重点戦略 = 総合戦略

各基本目標に掲げる施策の中から、特に「人口減少の抑制」や「地方創生の実現」に向けて高い効果が期待でき、重点的に推進すべき施策を抽出し、パッケージ化したもの

- 重点戦略1**
若者や女性に選ばれ、住みよさを実感できるまちづくり
- 重点戦略2**
地域資源のポテンシャルを最大限活用し、稼ぐ力を高めるまちづくり
- 重点戦略3**
人や企業に選ばれ、新たな人の流れを生むまちづくり
- 重点戦略4**
DX・GXにより誰もが豊かに暮らせるまちづくり

分野横断的に重視する視点

視点1

若者・女性に選ばれるまちづくり

若者や女性の減少は、少子化に拍車をかけるばかりではなく、まちから活力や多様性を奪い、その存在自体に影響を与える可能性があります。

性別や年代などの属性で異なる価値観や考え方の違いを乗り越え、地域の寛容性や包摂性を高めながら、若者や女性が住みたい、あるいは住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めることが重要です。

若者や女性が、地域や職場、まちづくりの場など、あらゆる場面で自由に意見を述べたり、意欲に応じて能力を発揮したりすることができる社会は、誰もが住みやすい社会でもあることから、若者・女性の視点から分野横断的に施策を推進し、選ばれる、魅力あるまちづくりを進めていきます。

視点2

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

人口減少・少子高齢化が急速に進行し、将来的に地域の担い手を含めた様々な資源の制約や、新たな地域課題の顕在化が懸念される中において、人口減少社会を前提とした持続可能なまちづくりを進めていくためには、今や市民生活に深く浸透し、企業活動を支える重要な要素となっているDXの推進が欠かせません。

あらゆる分野の施策に横断的にDXの視点を取り入れることで、行政運営の効率化や市民サービスの向上はもとより、企業の競争力強化や地域課題の解決などにもつなげていきます。

視点3

市民のWell-being（ウェルビーイング）向上

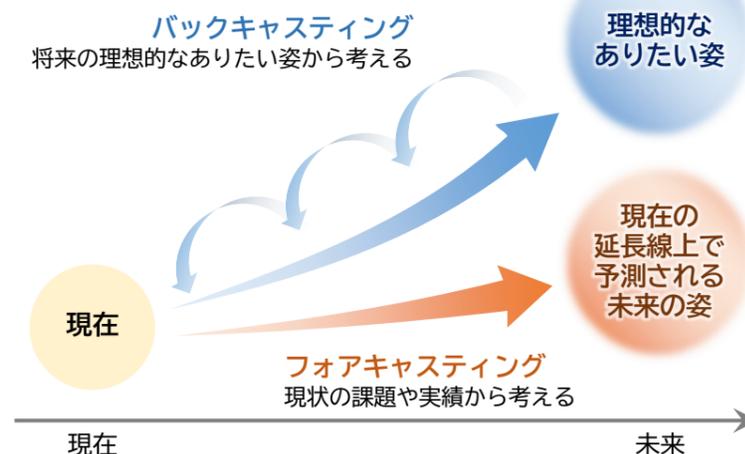
社会の成熟化に伴い幸せの形が多様化する中、特定の価値観や考え方、画一的な幸せ像の押し付けや強調ではなく、相互に理解を深めながら、地域における多様なつながりのもとで、一人ひとりの「Well-being」に寄り添うことができるまちづくりを進めていく必要があります。

Well-beingは、身体的・精神的な面だけではなく、社会的にも満たされた状態を指し、単に健康であることにとどまらず、社会的なつながりや生きがい、安心感など、様々な側面で幸福感や満足感を実感することができるよう、こうした視点を各種施策に取り入れ、分野を超えた施策の連携も進めながら、Well-beingの向上につなげていきます。

計画の推進

将来の理想的なありたい姿を描き、その姿を実現するため、未来から現在へと逆算して考える「バックカスティング」の手法により計画を推進します。

先行きが不透明で予測困難な時代において、将来の理想像の実現に向けた展望を明確にするためには、現状を踏まえて何ができるのか、あるいは何をすべきか、従来の延長線上で物事を考えるフォアカスティングから、未来志向のバックカスティングによりアプローチしていくことが重要です。



重点戦略 1 若者や女性に選ばれ、住みよさを実感できるまちづくり

人口減少と少子高齢化が急速に進行する中、地域の持続可能性を高めるためには、性別や年代などで異なる価値観を相互に尊重し、地域の寛容性や包摂性を高めながら、若者や女性に選ばれるまちづくりを進めていくことが重要です。

様々な場面で根強く残るアンコンシャス・バイアスや、固定的性別役割分担意識を解消し、若者・女性をはじめ誰もが意欲に応じて活躍できる環境づくりを推進するとともに、出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実に取り組みます。また、人口減少社会の進行を見据えた都市機能や生活機能が集積する拠点と、これらの拠点を連結する地域公共交通ネットワークの維持・強化や災害に強いまちづくり、地域コミュニティの維持・向上に向けた取組などを進め、誰もが住み慣れた地域で災害や生活利便性に左右されることなく、地域の支え合いのもと、生涯にわたっていきいきと安全・安心に住み続けられる地域社会を構築していきます。

こうした多分野における総合的な取組により、若者や女性に選ばれ、誰もが豊かさを実感し、暮らし続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。



戦略パッケージ

- ① 若者や女性が活躍できる環境づくりの推進
- ② 子ども・子育てに関する切れ目のないサポートの充実
- ③ 災害に強いまちづくりの推進
- ④ 地域の支え合いによる持続可能な地域づくりの推進

重点戦略 3 人や企業に選ばれ、新たな人の流れを生むまちづくり

人口減少対策に特効薬や決定打があるわけではなく、息の長い取組が必要ですが、一方で、仮に人口減少対策が功を奏し、出生率が今すぐ回復したとしても、人口減少の流れはしばらく続くため、人口減少の抑制に向けた取組と、人口が減少しても地域を維持していくための取組の両面からアプローチする必要があります。

移住・定住関連施策の充実に加え、地域の特性を活かした戦略的な企業誘致を推進し、地域経済産業の発展と新たな雇用の創出を図ることで、移住・定住を促進していきます。また、地域の活動への参加や都市と地方を行き来する二地域居住など、多様な形で地域と関わる関係人口の創出と拡大に取り組み、地域の持続可能性の向上につなげていきます。

多様な関わりを創出しながら、地域外から人や企業を継続的に呼び込む施策を展開し、人や企業に選ばれる、新たな人の流れを創出するまちづくりを進めていきます。



戦略パッケージ

- ① 移住・定住の促進と関係人口の創出・拡大
- ② 時流を捉えた戦略的な企業誘致の推進

重点戦略 2 地域資源のポテンシャルを最大限活用し、稼ぐ力を高めるまちづくり

人口減少社会の進行に伴い市場規模が縮小していく中において、地域経済が持続的に発展していくためには、地域の強みや資源を最大限に活用しながら「稼ぐ力」を上げていくことが重要です。

基幹産業である農業の競争力を高め、次世代につないでいくため、担い手の育成やスマート農業などを推進するとともに、本市の強みである農業と、伝統食や食文化などの地域の豊かな食資源を核に付加価値を創出しながら、地域全体の活性化につながる取組を推進していきます。また、自社の持続可能性を高め、さらなる成長に向けて積極的に取り組む地元企業の後押しや起業支援、さらには、観光や文化、スポーツなどの地域資源を磨き上げ、異なる分野や様々な要素と有機的に結びつけていくことで、地域経済産業の振興につなげていきます。

産業の振興や地域資源を活用した取組の推進を通じて稼ぐ力を高め、若者や女性が地元で希望を抱くことができる、持続的に発展するまちづくりを進めていきます。



戦略パッケージ

- ① 未来へ躍動する「力強いだいせん農業」の実現
- ② 地域産業の振興と起業の促進
- ③ 地域資源を活かした地域活性化の推進

重点戦略 4 DX・GXにより誰もが豊かに暮らせるまちづくり

人口減少の急速な進行に伴い、様々な資源の制約が懸念される中、複雑化する行政課題や多様化・高度化する市民ニーズに的確に対応するとともに、地域において生活に必要な不可欠な機能やサービスを維持し、さらには企業が持続的に成長していくためには、地域全体のDXの推進が欠かせません。また、地球温暖化を背景に世界規模で進行する気候変動は、経済活動のみならず、日常生活に直結する大きな課題となっており、私たち一人ひとりの理解と責任ある行動が求められています。

今後、急速な進行が避けられない人口減少社会を前提に、行政サービスの継続性を確保するとともに、社会経済活動や地域の生活機能、コミュニティ活動の維持に向け、地域社会全体のDXを推進していきます。また、再生可能エネルギーの導入や循環型社会の形成など、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組を進めながら、豊かな自然環境を活かし、地域経済の活性化や新たな成長につなげていきます。

DXとGXの推進により地域の持続可能性を高め、誰もが安心して豊かに暮らせるまちづくりを進めていきます。



戦略パッケージ

- ① 地域の持続発展に向けたDXの推進
- ② 「ゼロカーボンシティだいせん」の実現

魅力ある産業と地域資源により、にぎわいがあふれるまち

農林水産業や商工業、花火産業をはじめとした産業の振興に加え、企業誘致の推進や起業にチャレンジする若者や女性のサポートなどにより地域経済の活性化を図るとともに、観光やスポーツ、芸術・文化などの地域資源を活用した交流の促進を図るなど、活気ににぎわいがあふれるまちを目指します。

1 基本目標

1-1 農林水産業の振興	1-1-1 農業経営の安定化と強化 1-1-2 農畜産物のブランド化と販売促進 1-1-3 担い手の確保・育成と生産性の向上 1-1-4 生産基盤整備と農地・農村環境の保全 1-1-5 森林・水産資源の適正管理と有効活用
1-2 商工業の振興	1-2-1 地域商業の活性化 1-2-2 中小企業・小規模事業者への支援強化 1-2-3 企業誘致の強化
1-3 雇用・就労の促進	1-3-1 雇用・就労支援の充実
1-4 花火産業構想の推進	1-4-1 花火産業推進プロジェクトの推進
1-5 観光の振興	1-5-1 地域資源を活用した観光振興 1-5-2 観光施設の魅力向上と最適化
1-6 スポーツの振興	1-6-1 スポーツの推進 1-6-2 スポーツ環境の整備
1-7 芸術・文化の振興	1-7-1 芸術文化活動の促進と体験機会の創出 1-7-2 文化財の保存、整備、活用の推進
1-8 地域間交流・国際交流の推進	1-8-1 地域間交流・国際交流の推進

誰もが安全・安心で、幸せに暮らせるまち

地域医療体制や社会保障制度の維持強化に加え、地域の多様な主体との連携や地域の支えあいのもとで、高齢者や障がい者などのサポート体制の充実や防災・減災対策、雪や空き家への対策を進め、誰一人取り残されることのない、安全・安心で、幸せに暮らせるまちを目指します。

3 基本目標

3-1 保健・医療の充実	3-1-1 健康づくりの推進 3-1-2 地域医療体制の充実
3-2 社会福祉の充実	3-2-1 地域福祉の充実 3-2-2 障がい児・障がい者福祉の充実
3-3 高齢者福祉の充実	3-3-1 地域包括ケアシステムの推進 3-3-2 高齢者支援サービスの充実
3-4 社会保障の充実	3-4-1 国民健康保険・後期高齢者医療・国民年金制度の推進 3-4-2 生活の安定と自立への支援
3-5 交通安全・防犯対策の強化	3-5-1 交通安全・防犯対策の推進
3-6 防災・減災対策の強化	3-6-1 地域防災力の強化 3-6-2 消防体制・機能の強化
3-7 雪対策の強化	3-7-1 除排雪体制の強化 3-7-2 地域協働による雪対策の推進
3-8 空き家対策の推進	3-8-1 空き家の適正管理と利活用の推進

地域の活力を生み、誰もがいきいきと活躍できるまち

年齢や性別などの属性に関わらず、誰もが個性と能力を発揮することができる社会づくりを推進するとともに、出会いから結婚、出産、子育てまでの切れ目のない支援の充実や、個別最適な学びを提供し、地域への愛着を育む学校教育、自律的に学び続ける生涯学習の推進、地域に活力と多様性をもたらす若者の移住・定住を促進するなど、多様な価値観を認め合い、誰もがいきいきと活躍できるまちを目指します。

2 基本目標

2-1 出会い・結婚支援の充実	2-1-1 出会い・結婚支援の充実 2-2-1 母子保健の充実
2-2 子ども・子育て支援の充実	2-2-2 子育て支援の充実 2-2-3 子育てしやすい環境づくり 2-2-4 子どもの健全な育成の推進
2-3 学校教育の充実	2-3-1 教育環境の整備・充実 2-3-2 ふるさと教育・キャリア教育等の推進
2-4 生涯学習の推進	2-4-1 生涯学習環境の整備・充実 2-4-2 学習機会の充実と活動への支援
2-5 移住・定住の促進	2-5-1 情報発信の強化とサポート体制の充実 2-5-2 「すまい」「くらし」「しごと」に対する支援の充実
2-6 男女共同参画・女性活躍の推進	2-6-1 男女共同参画の推進 2-6-2 女性活躍の推進

豊かな自然を守り、快適な住みよいまち

カーボンニュートラルの推進や自然環境の保全などにより、豊かな自然を守りながら新たな成長につなげ、将来へ継承していくとともに、人口減少社会にあわせた都市基盤・インフラと公共交通の一体的な縮充、住生活環境や公園の充実を進め、自然との調和を図りながら、利便性が高く、快適で住みよいまちを目指します。

4 基本目標

4-1 カーボンニュートラルの推進	4-1-1 脱炭素化の推進 4-1-2 循環型社会の形成
4-2 自然・生活環境の整備	4-2-1 自然環境の保全 4-2-2 生活環境の整備
4-3 公共交通の充実	4-3-1 公共交通の維持・充実
4-4 機能集約型都市構造の形成	4-4-1 都市機能の集約と拠点づくりの推進
4-5 道路河川等の整備	4-5-1 道路・橋りょうの整備と河川の水害対策の推進
4-6 上下水道等の整備	4-6-1 安全・安心な水道水の安定供給 4-6-2 生活排水処理対策の推進
4-7 住環境、公園、緑地の整備	4-7-1 住環境の整備 4-7-2 公園・緑地の整備

地域と共に創る、未来に続く持続可能なまち

地域の魅力を市内外に広く発信するシティプロモーションを推進し、多様な人材の多彩な関わりを創出するとともにシビックプライドの醸成を図り、市民と行政との協働・共創のもとで地域コミュニティの維持・活性化に取り組むほか、DXの推進や限られた行財政資源の有効活用による効率的な行政経営に努めるとともに、公民連携をはじめとした多様な主体と連携しながら、未来に続く持続可能なまちを目指します。

5 基本目標

5-1 シティプロモーションの推進	5-1-1 地域の魅力の掘り起こしと情報発信の強化
5-2 地域活動の維持・活性化	5-2-1 市民・地域団体の活動への支援と活性化
5-3 市民や多様な主体との協働・共創	5-3-1 協働・共創のまちづくりの推進
5-4 行財政運営の効率化	5-4-1 行政サービス改革と自治体DXの推進
	5-4-2 人材の確保・育成と働き方改革の推進
	5-4-3 健全で持続可能な財政運営
	5-4-4 公共施設の適正管理と効率的な運営